

視察報告書を提出：個人・会派行政視察(2016.04.15-16)

庄内生活体験学校における「通学合宿」について視察 4月15日

記：町田市議会議員 吉田つとむ 保守連合

概要で次のように書かれています。

飯塚市庄内生活体験学校は、子どもが集団で、「働く体験、生産活動体験をする」施設です。子どもたちの、自主性・協調性・耐性をはぐくむ生活体験学校における合宿体験は、「汚れることをいとわず働く」ことを基本態度とし、野外の体験を大切にします。また、「作りながら使う、使いながら作る」というキャンプ場建設以来の歴史や経過を大切に継承する施設です。



「体験合宿プログラムで目指す子ども像」として、次のことが掲げられています。

- ・汚れることをいとわず（厭わず）働く
- ・困難に打ち克つて疲れずの気がいをもつて
- ・自明のことを厳しく教えられる
- ・他人との間で手を貸し、手を貸してもらえる

整理してみました。

元来は、合併前の庄内町から引き継いでいます。日本に一つしかないとも書かれています。この施設に小学生が合宿して、食事、入浴、洗濯、就眠し、通学するものです。食事やお風呂と言っても、その準備から片付けまで自分たちでやるのが特徴です。くみ取りトイレの肥やしを、まさに肥やしの堆肥を作ることまでプログラムに入っているとのことですが、

さすがにここまでついてこれない児童もいるようです。



現在は指定管理者：「特定非営利活動法人体験教育委研究会 ドングリ」 となっています。

プログラムは、月曜日に始まって、日曜日に終わるスケジュールです。月曜日の午前9時に集合、昼のご飯から自分で作り、最終日の昼ご飯、大掃除、振り返り、作文、閉校式、解散で午後4時まで拘束？されます。火曜日から土曜日まで3食をここで作り、ここで食べることで、午前5時45分に起床となっているのが特徴です。

必要な作業は、係に分かれてやります。

朝は、

- ・おかず作り
- ・風呂掃除
- ・動物の世話（洗濯）
- ・ご飯焚き

夜も同じような作業があります。

朝に、朝読みで、「朝のリレー」、夜に、夕読みで「夕暮れの時は良い時」をやることになっていました。もちろん、普通の日は宿題の時間も設定されているのが特徴です。

動物飼育体験、農作業体験もあり、メニュー豊富です。農作業の作物はおかずになるようです。



その他、1日の事前研修+1泊2日のコースも設定されています。それは、施設が合併で飯塚市の所有になったことで、旧庄内町エリア以外にも参加者に供するためのものでした。現在では、この体験を行った児童が、先のプログラムを体験することでした。

1回の参加者は、20名となっていました。大きな建物が基本ベースで、中は男女別に畳の部屋があり、楽しいキャンプが出来そうです。



特に注目、期待した内容について

半面、厳しい生活が予想され、早起き、掃除や食事の準備、洗濯が自分でやるようになっており、現代っ子には難関でしょう。



ガスを使って調理をするわけではなく、火おこしから始めるわけですから、ある種のキャンプ生活です。こうした突出した活動をやって見る上に、学校にも通うわけですから、現在のスバルタとも思えましたが、この種の取り組みを行政が行うことには大きな期待を持ちますし、さまざまの困難を克服して、事業を継続してもらいたいと思いました。



ここでの最大の注目点は、ここで孤立した生活を行うのではなく、普通の時間帯で通学し、学校の授業は普通通りに行っている点です。民間では合宿形式のものは塾や各種の学校で行われるものはあるでしょうが、学校生活は全く変えずに、親元から離れてその他を自分たちで全部やり切りスタイルは有意義ですし、特異なものであるでしょう。ですが、現代において、こうした先鋭的な取り組みがどのように有意義であっても、家族の中にはなかなか賛同の意を伝えるのは難しいのではないでしょうか。政治家、行政トップの深い理解

と、耐久力のある担当職員があつてのことでしょう。



もちろん、職員の配置も一定必要で人件費の懸念が起きていると思いますが、今日において、他に変え難い価値ある取り組みと考える次第です。その意味で、ここの施設と、活動を支える、「特定非営利活動法人体験教育委研究会 ドングリ」の地道な活動があつてのものでしょう。ここの施設のいくつかを見ると、その活動が見えてくる感じがしました。